

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	<u>11</u>
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		<u>30</u>

訪問調査日	平成 20年 8月 10日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 16時 45分

訪問先事業所名 (都道府県)	(有)マエダ グループホームねせぶ
-------------------	-------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>浜田 千里</u>
	氏名 <u>水流 涼子</u>
事業所側対応者	職名 <u>施設長 管理者 事務長</u>
	氏名 <u>前田光代 迫地セイ子 前田勇一</u> ヒアリングを行った職員数 5 人

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月25日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670700535号		
法人名	有限会社 マエダ		
事業所名	グループホーム ねせぶ		
所在地	鹿児島県奄美市名瀬大字根瀬部242番地1 (電話) 0997-55-665		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4丁目2番6号		
訪問調査日	平成20年8月10日	評価確定日	平成20年9月12日

【情報提供票より】 (20年 7月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 9月 2日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤15人, 非常勤1人, 常勤換算8.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,200 円	その他の経費(月額)	1日 300 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (7月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	
年齢	平均 82.9 歳	最低 67 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	奄美中央病院 南西整形外科 朝仁歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

奄美特有の自然に囲まれた集落の中に開設されているホームである。看護師が数名いるため、健康管理面での支援体制で入居者・家族等に安心感がある。職員は明るく入居者の個性を大切にケアに取り組んでおり、本人・家族等の喜びや信頼関係に繋がっている。日常的に近隣の生活の音や暮らしぶりに触れる機会が多く、ホーム行事への参加やボランティアの来訪、保育園や近くの施設と交流するなど住民との協力関係が深まっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、ユニット毎に自己評価に取り組んでいる。災害訓練は地元消防分団の協力のもと定期的に行われており改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価から業務の手順の見直しや、入居者全員で交流のあり方などを話し合い、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は定期的開催され、ホームの取り組み状況や外部評価等を報告している。参加者より、ホーム周辺の危険防止策の意見に対して、運営者・職員は具体的な支援をしてサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は面会時や家族交流会の折に要望や意見を出しやすい雰囲気づくりに心がけており、出された要望はミーティング等で話し合い、支援に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の敬老会・豊年祭などの老人会行事や保育園行事、近くの施設開催の農業祭に招かれて見学に行っている。また、ホーム行事にボランティアの来訪や地域行事の準備作業に参加する等、交流が行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義とその人らしく暮らせる支援を職員全員で確認し、家族や地域の人たちとの絆を重視した理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はミーティングや会議の折に理念を確認して共有に努め日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会・豊年祭などの老人会行事や保育園行事、近くの施設開催の農業祭に招かれて見学に行っている。また、ホーム行事にボランティア来訪や地域行事の準備作業に参加する等、交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、ユニット毎に自己評価に取り組み、業務の手順の見直しや入居者全員での交流のあり方などを話し合いサービスの質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催され、ホームの取り組み状況や外部評価等を報告している。参加者よりホーム周辺の車の通行速度について危険防止策の意見に対して、運営者・職員はホーム案内看板に徐行運転の注意書きを補足して対応している。		

グループホームねせぶ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に利用者の支援状況をメールや電話等で報告している。また運営やサービスについて相談しながら協力関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを毎月発行し、個別報告書を送付している。また家族等の来訪時や行事参加の折に、利用者の心身状況や暮らしぶりを報告している。金銭管理は出納帳・領収書のコピーにて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、面会時や家族交流会の折に、要望や意見を出しやすい雰囲気作りで心がけており、出された要望等はミーティングで話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員と入居者の馴染みの関係を重要視したケアを心がけている。やむを得ない異動の場合には、ダメージを受けないように十分な説明と配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地区のグループホーム協議会の研修に交替で参加している。勉強会時に復命研修をして、職員の技術や知識の向上に活かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にある他の5つのグループホームと、定期的に勉強会をしたり、見学や情報交換等を行い交流を図っている。		

グループホームねせぶ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居が決定したら自宅や病院に行き面談し、利用者の生活状態・思いや不安を十分に聞いている。また馴染めるように見学をもらい、信頼関係を築き、不安なく入居できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一人ひとりの入居者に寄り添い傾聴に心がけている。郷土料理・風習・踊り・歌などの得意とすることをしてもらう中で、教わったり、感謝の言葉に癒されたり、励まされながら支えあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で傾聴に心がけて思いを引き出したり、言葉や表情で察するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を基に主治医、職員の意見を活かし、定期的なケア会議で本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しをしている。毎月のモニタリングや入居者の入退院などの状態変化時に評価結果を活かして見直ししている。		

グループホームねせぶ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等の状況や要望に応じて、病院受診や墓参り・友人宅訪問・馴染みの場所に連れて行くなどの特別な外出の支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認して、本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を継続できるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して、家族・医師を交えて話し合い、職員も共有している。ホームが支援できる方向性の指針も定められている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。職員採用時に個人情報保護について誓約書も取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・レクリエーション・就寝等その人の生活リズムを大切にしながら、本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

グループホームねせぶ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	偏食気味の入居者にも食べられるように、新鮮な魚介類や旬の食材を工夫している。下ごしらえや下膳等、できる事を職員と一緒にしながら、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一人ひとりの希望に応じて支援し、入居者の清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事・鳥の世話・カルタとり・リハビリ体操・歌・工作・洗濯物たたみ等、一人ひとりの得意な事や好きな事に力を発揮してもらいながら生活できるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩や夕涼み・外気浴のほか、ドライブや花見・花火大会等に出かけて、ホームに閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害を理解している。職員の見守りで一人ひとりの行動を把握して鍵をかけずに自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元消防団と関係を取りながら、昼間・夜間を想定した避難訓練を定期的に行っている。また地元住民の災害時の協力体制もできており、災害時の備蓄もしてある。		

グループホームねせぶ

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量・体重を記録して、状態に応じた摂取量の確保ができるように支援している。身体状況に合わせて、おかゆやトロミ・キザミ食等を取り入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間は天井が高く天窓があり、清潔で温度や換気が良く、広い廊下や中庭まで手すりのついたスロープが設けられ入居者への配慮が行き届いている。慣れ親しんだ季節行事の装飾や花に囲まれて入居者はゆったりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットや寝具・位牌・扇風機・家族写真等、使い慣れた物品が持ち込まれ安心して生活を楽しんでいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。